



編集・発行 邑楽町役場企画課
 〒 370-0692 (住所記入不要)
 ☎ 0276-88-5111 (代表)
 ☎ 0276-47-5007 (企画課直通)
 ☎ 0276-89-0136
 http://www.town.ora.gunma.jp
 ✉ koho@town.ora.gunma.jp

邑楽町携帯サイト
 2次元コード対応の携帯電話は、右のコードをご利用ください。読み取りができない場合はURLをご入力ください。
 携帯用URL http://www.town.ora.gunma.jp/k



〈第六十四回〉

若い人たちに語り継ぎたい、
 次の世代に残しておきたい。
 貴重な話をお届けしますー。

あすへひとこと

いつの時代までも残したい

邑楽町の昔ばなし



1年の運勢を占うといえば「初夢」。「一富士、二鷹、三茄子」とよくいわれますが、皆さんの初夢はどんな夢ですか(写真は高根澤高明さん撮影)

年神様の本番は節分の夜

思えば八十年前にさかのぼる。人々の楽しみは、盆、正月、祭日、農休みだった。

正月行事の年神様については、床の間の前の天井へ竹を割ってつり棒を作り、つり棚を取り付け、中央にへいそくを立てて、重ね餅の大きいのを供え、三日間食事を上げた。十四日には、もの作りといって、ミズキの枝を用意して、米の粉で繭だんごを作り、花が咲いたように飾り付けた。

そして、年神様の本番は節分の日の一晩であった。その日の午後から大豆をほろろくでいり、升に入れて用意する。また、いわしを焼いて頭を棒に刺し、「農作物の害虫を食いつぶしてくれよ」と言いながら玄関に飾る。

夕食を早目にすませて年男(家の主人)が大きな声で「福は内、鬼は外」と一回りしてから玄関に来て「福は内」と家の中へ豆を投げ入れ、終わりに外に向かって鬼は外と豆を投げて障子を強く閉めた。

それから冬至に漬けておいたゆずのみそ漬けを出して家族みんなでゆず茶を飲み、豆を食べた。年寄りには豆が食べられないので、甘納

豆を年の数だけ用意した。子どもたちはそれを見て「じいちゃん、ばあちゃんはいいね」と言って欲しがり、結局は分けしてもらって食べた。今にしてみれば面白くもあり、懐かしくもある。

節分の豆まき

楽しかった正月も七草が過ぎると落ち着き、あつという間に一月も終わると節分です。

戦後間もないころ、どこの家でも夕暮れが迫り来ると、早く夕飯を済ませた家から、わが家の安泰を祈り「福は内、鬼は外」と大きな声が聞こえてきました。

二区のある家では、「豆まきの時には同じところを通ってはいけない」と言われてきました。豆まきは、まず母屋の神棚から始めますが、その時に一度歩いたところは歩かないようにします。

家の外の豆まきもそのとおりで、もとは竹やぶや防風林などがあつて、暗闇では危険でした。まして雪の積もった年などは屋敷稲荷様の豆まきの後、帰りの通路が分からず難渋したといわれます。



【発行】邑楽町老人クラブ連合会 【編集】あすへひとこと編集委員会

『年神様の本番は節分の夜』(平成7年3月31日発行「邑楽町の盆と正月(第五集)あすへひとこと」)より

『節分の豆まき』(平成10年12月31日発行「高齢者の語り(第六集)あすへひとこと」)より



朝の輝く
 (多々良沼)

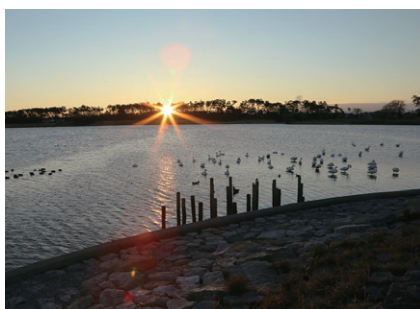


Photo 高根澤高明(記録ボランティア)

ひとりごと From editors

2017年のえとにちなんでニワトリの話。今から約20年前、わが家ではニワトリを飼っていました。庭の柿の木を中心に、幅約10m、奥行き約5m、高さ約2mのネットを張り、数羽のニワトリを放しました。▶卵をたくさん産む日もあれば、全く産まない日もありました。新鮮な卵はもちろん絶品。柿の木につく虫を食べ、地面に生える雑草をついで駆除するため、ネットの中はいつもきれいになっていました。ただ、夜中に大声で鳴くのがちょっと…。その後、諸々の事情から飼うのをやめてしまいましたが、今でも思い出します。▶太古の昔から人間と仲良く暮らしているニワトリ。犬や猫、牛や馬などと並んで人間と仲のいい生き物のようです。今さらながら、トリさんに感謝!(田中)



この広報紙は、自然保護のため植物油インキを使用しています。